

行政視察報告書

令和5年2月26日

長浜市議会議長

様

長浜市議会議員

竹内直隆

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 会派新しい風行政視察
2. 視察期間 令和5年2月13日（月）～15日（木）
3. 視察場所及び目的
 - ①滋賀県大津市大津百町・商店街活性化について
 - ②兵庫県川西市立総合医療センター・病院改革について
 - ③兵庫県淡路島フロッグスファームアトムスフィア・地方創生について
 - ④徳島県徳島市役所・デジタルトランスフォーメーション・脱炭素について
 - ⑤徳島県神山町・サテライトオフィスについて

4. 調査内容感想等

・視察の目的

長浜市が抱える商店街の活性化、病院統合、デジタル環境、過疎対策などの共通課題にどのように対処されているのか、参考にすべき取り組みについて検証してきました。

・視察の内容

大津百町も長浜市と同じように商店の数は減少しているが、町屋ホテル、町屋カフェ、町屋サロン、地域密着型FM放送設置運動など若手の経営者が頑張っておられます。物を売ることも大事ではあるが、手打ちそば、お抹茶の作法体験、演奏などによる、「人が集う」まちづくりからのスタートに心掛けられていた。

川西市の病院改革では、当時の川西市立病院が平成14年度から赤字決算が続く状況になり、資金不足の状況に陥り、それ以降毎年度約10億円の補助金を交付して病院経営を支えてきた経緯があります。また病院の老朽化による建て替えが必要になってきたが、少子高齢化などによる人口減少や医師の減員による患者数の落ち込みなどにより損失が大きくなってきた結果、病院統合に踏み切ることになりました。経営形態の見直しについては、民間的経営手法の導入（地方独立行政法人化・指定管理者制度の導入）などによる解決策を講じる必要がありますが、多くは民営化反対というものでした。市民との説明会を繰り返し行い、医療法人協和会を公募により、川西市立総合医療センターが指定管理者制度としてスタートしました。一定の期間は市の職員の給料を保証するための差額保証や公務員の身分を希望する職員には、市の職員の事務職の転籍を可能にしたなど、処遇についての協議や配慮がなされました。また指定管理者に対する市の管理責任を果たすため、市の職員の基本協定書や仕様書に定められていることが守られているかチェックされたり、市民の代表が病院に対する意見や提案について意見交換する場を設置されています。学識経験者によって経営評価をさまざまな視点から審査し、健全化を図っておられます。長浜市においても市立病院への繰出金の問題を精査しなければなりません。

路島フロッグスファームアトムスフィアについては視察時期が冬ということからほとんど人の動きはない状態でした。場所的には夏のシーズンを主体とされているようですが参考にはならないと思います。

徳島市のデジタルトランスフォーメーションについては、県庁所在地でもあり、取組も令和2年と早い取り組みでありましたが、昨年12月に策定した本市の計画とあまり差異がないように感じました。オープンデータの推進、デジタルデバイドへの対策、

災害時のオペレーションシステムの整備、小中学校の ICT 環境の整備など、長浜市でも整備されている事案でした。行政サービスの LINE 活用や、スマホを活用したゴミの適正排出・分別、子育て支援アプリの導入、キャッシュレス決済の導入などは利便性の向上を図るために活用、拡充されていました。

脱炭素については太陽光発電「初期費用ゼロ円」事業を推進されていますが、自家消費電力として脱炭素に協力していると認識して蓄電池の併用をお勧めします。売電できると思わない方が良いでしょう。

徳島県神山町・サテライトオフィスについては、当日他府県からも視察に来ておられ、人気の度合いがよく分りました。芸術家と呼ばれるような人たちが移住して来てから、その人達のネットワークでさらに人が移住してくる好循環が山の中でも生活ができる実証として確立されました。さらにその中で事業の成功者が輩出、出資され民間の高専が設立されることになりました。80 人学級の 5 年生であるため、また全寮制ということで 400 人の人口増が見込まれます。第一期生の募集ツアーには約 300 名の応募者がありました。人気の度合いがうかがえます。

・行政視察の結果を本市議会にどのように反映させるか

病院経営の手法については赤字経営を容認する意見が議員の中に見受けられるが、市からの繰入金で毎年 10 億円を超える状況では、市の財政を圧迫することは明白であると推測できる。財政不安は医療の縮小や人材の流失を招く可能性が出てくる。手遅れになってからの再生は住民負担が大きく、安心な医療を提供するには、指定管理による病院経営が最適であると個人的には思います。まちづくりは起業家やエリートを育てることではなく、

自己管理や自分の進む道、自分のやることが自分で選択できる人が集まることです。

力強い「まち」が形成されてくると、強い意志を持った人たちのコミュニケーションは
広く拡散されて、大きなうねりとなって、回りを吸い込み、そこに核となるものが生まれて
きます。それは1つの個性となり、そこにしかないものとして、存在感が立証され、人が
集まってくるのです。長浜市が人を受け入れやすい環境整備体制を築くことが、企業誘致と
並んでの大きな柱にすべきと思います。